

## ごあいさつ

リオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットから10年が過ぎました。今年はこの10年間の課題の整理と今後の取組みの強化を目的にヨハネスブルグサミットが開催されます。この間の世界的な環境問題への取組みは必ずしも急速なものではありませんが、京都議定書への合意等、着実に進展していると考えています。一方、我が国においてはエネルギー、資源、有害物管理等、広い分野で法的な枠組みが整備され、21世紀に向け取組みの基盤が整った実り多い10年であったと言えると思います。

鹿島はリオ地球サミットの開催された1992年に業界に先駆けて「地球環境問題に関する鹿島の基本方針」を制定して以来、省エネ・省資源を目指した環境配慮設計の推進、廃棄物の削減・リサイクル、汚染土壌浄化や生態系の保全・修復に関する技術開発等、事業活動の各分野において環境保全活動を展開してきました。この間、建設廃棄物のリサイクル率が1996年度の58%から2001年度には82%に向上する等、その活動は確実に成果をあげています。あわせて全社的な環境マネジメントシステムの整備を進め、1998年～2000年にかけて本社を含め全支店、主要事業本部でISO14001の認証登録を行い、組織・推進体制の観点からも環境経営の基盤が整ったと考えています。

鹿島は自らを「100年をつくる会社」と表現していますが、これは社会基盤の整備を担う建設業としての責任の重大さとそれに応えていこうという自負を示したものです。資源エネルギーの循環と自然との共生を目指す持続可能な社会の構築が全球的に重要課題となっている今、事業活動を通じて環境問題の解決に貢献していくことが鹿島の最も重要な経営課題の一つであることは言うまでもありません。鹿島は地球温暖化の防止、資源循環の促進、有害物の管理、生態系の保全を重要な環境課題と位置付け、引き続き持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

鹿島は「100年をつくる会社」であるとともに時代を超えて成長しつづける企業でありたいと考えます。そのためには社会から信頼され、評価される企業であることが必要です。環境への取組みが企業価値を判断する際の必須要件となっている今、自らの事業活動で評価に値する環境保全の成果をあげるとともに、その成果を正しく知っていただくことが重要です。鹿島は情報開示の一環として1996年から環境報告書を発行しています。本報告書を通じて当社の環境への取組みをご理解いただくとともに、その向上に向け、皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2002年8月  
代表取締役社長

梅田 真夫

